

4. 相互扶助

われわれは、多くのたすけ合い指標より質問19を設け、その家庭の生活問題に限って考察した。その生活問題とはさし当り過去に経験したものであるが、その中から3つの生活問題、つまり、1) 進学・就職・結婚等々の進路選択決定に伴う諸々の心配ごと、2) 病気や不慮の事故などによる相談や介護依頼、さらに、3) 経済的問題、さしずめ金銭の貸し借りに限った。しかも、その際具体的に頼りになった人物がいたか、いなかったか、さらには相談相手や頼りになった相手とは一体誰かを重ねて問うてみることにした。

早速、結果の概要(単純集計)について述べる。まず目につくことは生活問題だけあって答えたがらない一般的傾向がある。したがってまた、それをふまえての分析になる。因みに、「問

題あり」と解答した者で相談相手を明記しなかった者の割合が、解答、進学・就職・結婚7.9%、事故・病気5.8%、そして金銭問題が15.9%である。まず、第1の生活問題(進学・就職・結婚)で、過去に経験したことのある家庭だが、「無い」と答えたもの68.5%、「有り」と答えたもの22.2%、そして「不明」9.3%と、過去に問題をかかえた家庭が全体の5分1、つまり5世帯に1世帯の割合であったことが分かる。続いて、第2の生活問題(事故・病気)だが、第1の生活問題の「有り」「無」群との違いに気がつくのである。逆転しているからである。つまり、「有り」群が「無い」群をおさえ、僅か数%だが優位を示している。「有り」48.6%、「無い」42.8%、そして「不明」8.7%となっている。さらに第3の生活問題についてはど

うだろうか。やや第1の生活問題の(金銭問題)のパーセントに似たかたちを示しているが、若干「有り」群(17.1%)が減り、「無い」群が(73.1%)と増えている。

総じて過去の生活問題のうちこれをランク付けすれば、第1位に事故・病気問題、第2位は進学・就職・結婚問題、そして金銭問題がそれに続いている。しかも、特に注目していい問題には、第1位にランクされた事故・病気問題のパーセンテージではなからうか、凡そ半数、つまり2世帯に1世帯の割合でそうした生活苦になやんだことのあることを、この数字は物語っているのである。次いで5分の1ずつ進学・就職・結婚、金銭問題という構造になっている。

さて、それではそれらの生活問題のプライマリ・ヘルピングハンドは、一体誰に依拠したかしらべてみた。想像するに親類、それに隣り近所や友人といった近い関係(crossed relations)に集中するのではないかとおもうが実際はどうだろうか。

全くこれは予想どおりで、3つの生活問題いづれもプライマリ・ヘルピングハンドは親類を中心とした、きわめて親しい間柄にある者に指向していることがわかる。これを一応親類センター(cross relations centre or kim centred)と

しておこう。しかもここには多くの依拠パーセントが占められていることにも改めて驚くのである。ところが上位にランクする問題(病気・事故)を次位の進学・就職・結婚問題のオルソ関係との間には、ヘルピング・ハンドの2位以下が入れ替わっていることに気付く。つまり、病気・事故の場合には「友人」がプライマリ・ヘルピング・ハンドであるのに対して、進学・就職・結婚問題では「近所の人」というが如きである。さらに第3の問題金銭についての依拠は、当然「親類センター」に他ならないが、次位にはなんら特筆すべきものを持っていないのである。むしろ他への依拠の度合いが低いこと、かつ金銭の借用をある特定の相手にという選択ではなく、誰彼れとなく金銭問題については相談をもちかけているようである。

それでは次に具体的な数量をあげて概要を説明しておこうとおもう。

イ) 家庭で事故・病気などの問題のあった者 (48.6%)

頼りになった人	
1. 親類	51.0%
2. 近所の人	23.4
3. 友人	7.5
4. 職場の友人	2.5
…	
無	5.8

表Ⅶ-4-1 性別・生活問題別 (「問題あり」のみ集計)

進学・就職・結婚問題あり		近所の人		親類		友人		職場の人		同窓・同僚		その他		なし	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男 128	21.7	15	11.4	54	41.0	29	22.1	5	3.8	4	3.1	9	7.0	11	8.3
女 32	28.3	1	3.0	13	39.4	9	27.3	4	12.1	1	3.0	2	6.1	1	3.0
不明 4	10.8	—	—	—	—	1	10.0	2	20.0	0	—	1	10.0	1	10.0
計 164	22.2	16	9.1	67	38.5	39	22.4	11	6.3	5	2.8	12	6.8	13	7.5

病気・事故・失業問題あり		近所の人		親類		友人		職場の人		同窓・同僚		その他		なし	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男 302	51.3	67	21.8	155	50.6	23	7.5	8	2.6	7	2.2	16	5.2	18	5.9
女 47	41.6	14	28.0	22	44.0	3	6.3	1	2.0	2	4.0	5	10.0	—	—
不明 10	27.0	3	18.8	6	37.5	1	6.3	0	—	0	—	0	—	0	—
計 359	48.6	84	22.5	183	49.2	27	7.3	9	2.4	9	2.4	21	5.8	18	5.6

金銭問題あり		近所の人		親類		友人		職場の人		同窓・同僚		その他		なし	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男 109	18.5	3	2.5	66	56.9	5	4.5	5	4.5	4	3.4	7	4.9	18	15.5
女 14	12.4	2	11.8	11	64.7	—	—	—	—	1	5.8	—	—	1	5.8
不明 3	8.1	0	—	3	30.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10.0
計 126	17.1	5	3.5	80	55.9	5	3.5	5	3.5	5	3.5	7	4.9	20	13.9

ロ) 家庭で進学・就職・結婚で困ったことのあるもの (22.2%)

頼りになった人	
1. 親 類	40.9%
2. 友 人	23.8
3. 近 所 の 人	9.8
4. その他の人	7.9
無	7.9

ハ) 家庭で金銭上の問題がおこって困ったことのあるもの (17.1%)

頼りになった人	
1. 親 類	63.5%
2. そ の 他	5.6
3. 近所の人・友人・職場の同僚・同窓生いずれも	4.0
無	15.9

次ぎはプライマリーヘルピング・ハンドから生活問題を捉えてみると、凡そ次のようなことが指摘できるとおもう。それはこの中心になっている親類を例にとると、金銭、事故・病気、進学・就職・結婚の順となり、いずれも40%を越す割合を示している。さらに近所の人では病気(22.5%)、進学・就職・結婚(9%)、そして最後に友人であるが専らこれは進学・就職・結婚問題に集中しているようにもおもえる。

ここで、やや神経質的だが考えておかねばならない問題があるようにおもう。それは何かと

いえば、いずれの生活問題共に相談相手のないしたがって頼りになった相手がいなかったりする者の割合である。因みに、最も多いものは金銭問題が14%と上位を占め、次いで進学・就職・結婚8%，そして事故・病気が6%の順となっている。しかも、これをさらに年令とのクロスをしてみると、一層問題は明らかになる。つまり、若干、高令者群に高い率を示す傾向のあることが分かる。従って筆者はこれを第1の老令化の空洞化と呼ぶことにしたい。

それでは第2の空洞化を探してみることにしよう。若干、数字だけをこねまわすきらいがないではないが、性別・年令・教育程度・居住年数・収入・ライフステージ等々の属性とのクロスを試みたものから探し当てておこうとおもう。

まず、1) 性別：性別による差であるが、いずれの問題とも差は歴然とわかる。病気では男性51%、女性42%、進学・就職・結婚、男性22%、女性28%、そして金銭問題では男性18%、女性12%となっている。総じて次のようなことが言えるのではないかとおもうが、病気・金銭が男性群に、進学・就職・結婚問題に女性群に集中しており、前者を男性型生活問題と後者を女性型生活問題と呼べそうである。

2) 年令：進学・就職・結婚問題で25%、つまり全体の4分の1以上を占める年令は10代、20代、50代、そして60代である。しかも高令化

表Ⅶ-4-2 家族形態と生活問題

	単独世帯			夫婦のみ世帯		夫婦＋未婚子		片親＋未婚子		夫婦＋夫婦		片親＋夫婦		親夫婦＋子夫婦＋未婚子		片親＋子夫婦＋未婚子		その他	
進学・就職・結婚問題あり	164	30	18.3	16	9.8	52	32.0	12	7.4	5	3.0	2	1.2	9	5.5	16	9.8	6	3.7
病気・事故・失業問題あり	359	44	12.2	55	15.3	125	34.8	23	6.4	4	1.1	5	1.3	25	6.9	41	11.4	12	3.3
金 銭 問 題	126	13	10.3	21	16.6	43	34.1	9	7.1	1	0.7	2	1.5	9	7.1	13	10.3	5	4.0

表Ⅶ-4-3 世帯の年間収入と生活問題

	100万 未満		100万～ 200万		200万～ 300万		300万～ 400万		400万～ 500万		500万～ 600万		600万～ 800万		800万～ 1,000万		1,000万 ～ 1,500万		1,500万 以上	
進学 164	18	10.9	19	11.5	25	15.2	21	12.0	19	11.5	14	8.5	8	4.8	10	6.0	6	3.6	3	1.8
病気 359	27	7.5	44	12.2	54	15.0	56	15.5	51	14.2	27	7.5	22	6.1	22	6.1	14	3.8	6	1.6
金銭 126	13	10.3	18	14.2	19	14.0	24	19.0	21	16.0	9	7.0	6	4.7	5	3.9	2	1.5	—	—

に伴ない親類・友人・近所の人への依存度が低くなってゆく傾向がある。従って、まずこの傾向を第2の年令の空洞化と呼ぶことにしよう。多少ともに高令者群に問題の割合がシフトする点からも第1の空洞化と共通するものが伺われる。次いで病気・事故問題では半数(50%)が高令者群で8～11%を占めている。とくに見逃せないのは相談者なし、むしろ頼っていった人のない者が30代から50代にかけて特徴的なシフトが敷かれていることも見逃してはなるまい。

3) 教育程度：さて教育程度による差であるが、大変興味あるデータを紹介できるとおもう。いずれ3つの生活問題共通に言えることはそのプライマリー・ヘルピングバンドへの依存度が義務教育程度の者より、それ以上の高等教育を受けた者の群に有意な差がみられるようだ。つまり前者が30%程度なのに、後者の依存度は50%と高い割合を示している。むしろ筆者はこの辺、つまり義務教育程度のものはもっぱら「がまんの子」で高学歴者群に多少忍耐のない者が多いこと、尚これが、今後の老後老人問

題に新しい問題や波紋をなげかけてくるのではなかろうかとおもう。従って、これを第3の空洞化高学歴者層と列挙しておきたい。

4) 家族形態：この属性による差の特色はいずれの問題ともに、核家族的世帯が50%，直系家族世帯が20%，そして単身世帯10%と、さらに次いでランクされるのが高令者核家族である。

5) 収入：共通していえることは、いずれも100～500万未満の収入の層が1割以上の割合で占められ、同様のことは職階では生産工程に「問題有り」と答えたものが1割以上占められている。

6) 居住年数：一応、地域への同一化（うちもの）が20年以上という指標から戦前と戦後に分けて生活問題をクロスしてみた。すると大変興味のある問題が指摘できようかとおもう。まずその1つは、進学・就職・結婚問題には戦前からの居住者群により「問題あり」と答えたものが、また金銭問題では、戦後のいわゆる新参者に「問題あり」が優位を来たしている。ただし、相談相手のいなかったものとのクロスから

表Ⅶ-4-4 居住期間と生活問題

		明治以前		明治		大正		昭和～終戦		終戦～29年		30年～39年		40年～49年		昭和50年以降		不明	
進学・就職・結婚	164	10	%	17	%	13	%	33	%	27	%	16	%	17	%	25	%	6	%
病気・事故・失業問題	359	22	6.1	31	8.6	23	6.4	88	24.5	53	14.7	38	10.5	43	11.9	55	15.3	6	1.6
金 銭	126	6	4.7	7	5.5	10	7.9	33	9.1	22	6.1	11	8.7	12	9.5	22	6.1	3	2.3

表Ⅶ-4-5 ライフ・ステージと生活問題

		若年单身		末 子 末 就 学		末 子 小 学 校		末 子 中 学 校		末子高校		末子就劳		末子大学	
進学・就職・結婚	164	13	8.0%	9	5.5%	21	12.9%	10	6.1%	11	6.7%	1	0.6%	7	4.3%
病 気・事 故	359	12	3.3	43	11.9	56	15.6	34	9.4	17	4.7	1	0.2	12	3.3
金 銭	126	3	2.3	20	15.8	17	13.5	14	11.1	4	3.1	1	0.7	5	3.9

末子就労・無職	末子就労・無職(22歳以上)	夫婦のみ(30歳～60歳未満)	夫婦のみ(60歳以上)	中年単身(30歳～60歳未満)	高 単 身 者	不 明
8	36	9	10	5	9	15
13	55	27	32	9	20	27
6	14	9	14	4	5	1

ここにも地域の空洞化と呼んでいい問題があるようにおもえる。

	進・就・結	病気・事故	金銭問題
戦 前	44.5%	60.0%	44.4%
戦 後	35.2	37.8	53.1

7) 最後に、ライフステージとの関わりをみると、いずれの問題ともに、単身世帯者と60歳以上の年令の世帯に集中している傾向がある。しかもいずれのステージともに生活問題は、金銭問題、病気・事故、就職・結婚の順に並んでいる。

(山口信治)